

十勝毎日新聞

発行所
十勝毎日新聞社
〒080 帯広市東1条南8丁目
電話=編集②2121、広告
③2323、総務・販売④2222
©十勝毎日新聞社 1987

★アメリカ★ 宇宙開発最前線

大樹町を中心とする十勝に新しいスペースポート(宇宙港)・航空宇宙産業基地を誘致する機運が熱気を帯びているが、記者は今年の年間キャンペーン「目指せ宇宙基地」の一環として宇宙開発の先進国・アメリカを十八日間わたって視察してきた。NASA(米航空宇宙局)の各センター、大学、企業を回って感じたのはやはりスケールの大きさに、一例を挙げると、米のスペースポート、ケネディスペースセンターの面積は日本の種子島宇宙センターの八十倍に及ぶ。すべてがケネディなのだ。そして、宇宙開発とかわった地域がいずれも魅力的な地域として生まれ変わっている点も印象的だった。宇宙の持つ夢、将来性が地域の可能性を膨らませているのだ。日本も早くスペースポートをつくり、スペースブレイクを開発しなければ、米との差は広がる一方だろう。十勝が将来のスペースポートにいつなるかが、日本の将来にとっても重要な意味を持つような気がした。以下、アメリカを歩いたルポを紹介する。(小野寺 裕政記者)

NASA本部

波乱のスタート
九月八日午後三時半、成田空港をスウェーデン機で出発した。最近、米国機は事故が多い。しかも米は初めて一人乗機内で「ピア」とビルを生文したつらさが発音が悪かったの

エックインできたからよかったが、初日から波乱をおおせるスタートだった。翌日基盤の目に整備された市街を歩き、ホワイトハウス前に立った。ここで世界の政治が決まるのか、などと考えるが、市街地の中央にあるNASAに向かった。

フィリップ・E・カルバートソン政策計画副管理者



宇宙ステーションの説明をするP・E・カルバートソン氏

に面会した。航空エンジンとしてロケット、スライフ、スペースシャトル計画に参加、スペースステーション計画にも関係した人物だ。

さうそう、昨年一月、チヤレンジャーの事故以来、NASAが今、何に取り組んでいるか聞いてみた。確かに事故はショックだった。宇宙開発が危険と隣り合わせであることを改めて痛感させられた。今は安全性に気を使い、来年六月のシャトル打ち上げ再開に向けて全力を挙げている。国民の大半は失敗にじけずに進めようとしている。それは宇宙が望んでいる。それは宇宙が

せよ、大筋はチヤレンジャーに変わりはない。米のたくましいパイオニア精神が伝わってきた。同氏の説明では、来年六月成功すれば、九九三年には年十三回シャトルを飛ばす予定だ。そして、当面NASAが目指すのがスペースステーション計画だ。

に選定する。地上四百五十キロの宇宙に浮かぶ宇宙ステーションはもうこの世界ではなく、現実なのだ。これには日本も実験モジュールで参加する事が決まっています。同氏は室内の酸素のリサイクル、浄化技術に特に期待している」と模型を指しながら説明してくれました。

氏は「完成の時期はまだ分からないが一九九三、九五年に研究用のものを飛ばしたい」と示した。さらに二〇〇五年に月面宇宙基地、二〇一〇年に火星に宇宙基地をつくる研究にも入っている。同氏は「月、火星の基地は技術的には可能だが、金がかかるのでいつ決心するかがむづい問題」といって、宇宙ステーションと月を往き来するブレン「Centaur」(セントール)の大型のものや人間を運ぶブレンが必要で、その構想もスタートしていることを解説してくれた。

各国の観光客が群がっている。美術館、歴史技術博物館など数多い Smithsonian 博物館の中でも、最も人気があるのがこの航空宇宙博物館だ。次回に命運が...

ステーション射程 シャトル誇りかけ来年再挑戦

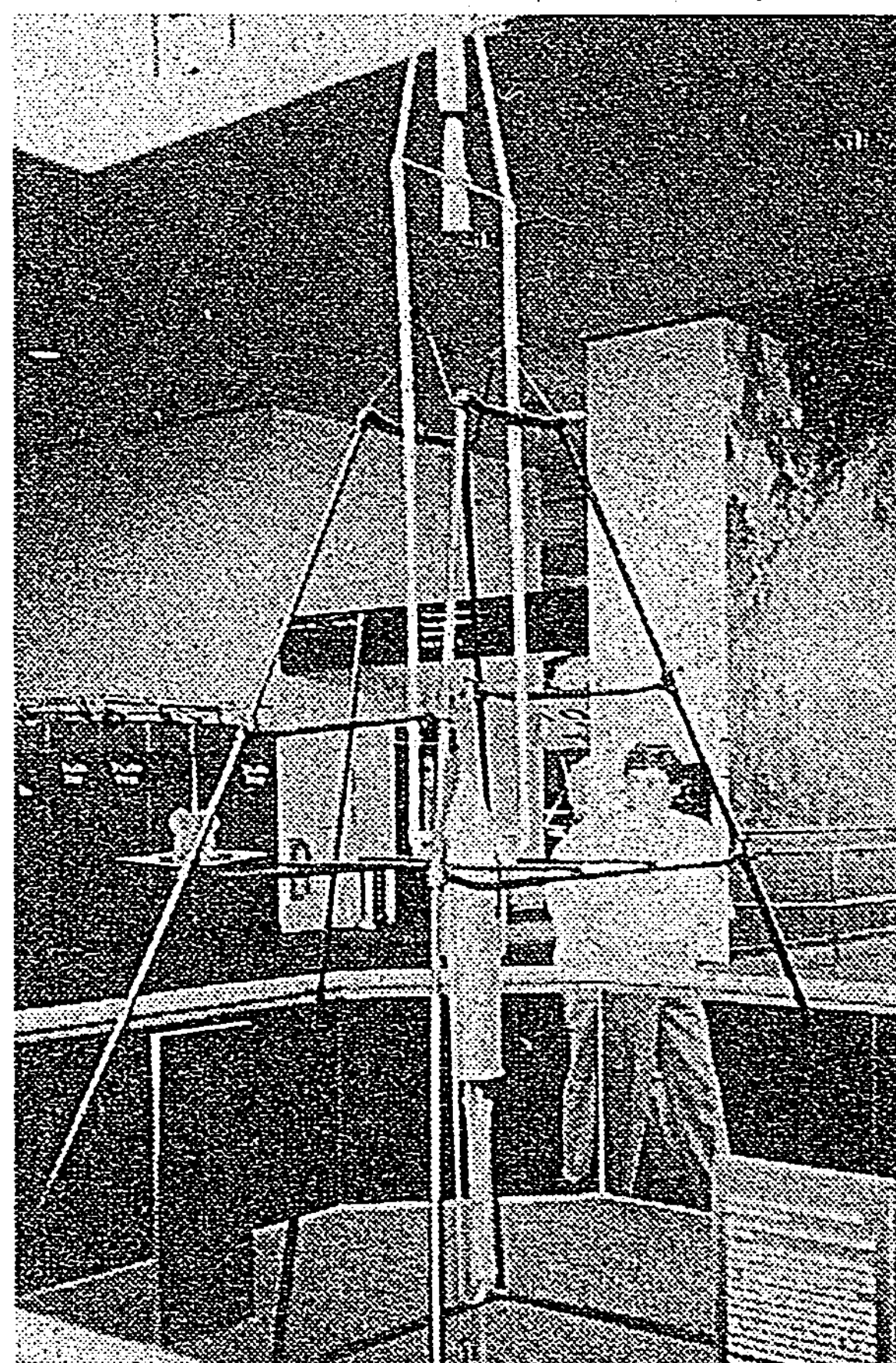
科学の発達に貢献するからで、宇宙への挑戦はアメリカ人の誇りだからだ。日本なら失敗すれば世論が極端に慎重に傾くだろう。だが、米は一度の失敗でさまざまな問題が出たに

プレンも現実化
一九九四年をメドに実現に向けるが、この数カ月でステーションを建設する企業が決定する。応募している六共同企業体を四企業体に減らす計画だ。同

ステーションと同時にNASAが取り組んでいるのが人を運ぶ商業用のオリエントエクスプレスと物を主に運ぶロケット「ヒアクル」(宇宙船)つまり、次世代のスペースブレンだ。同

「富士山があるから日本人は富士山に登る。我々も月、火星があるから行く」とする。人間の好奇心は尽きないよと笑った。最後に日本の宇宙開発について聞くと「十四年前種子島に行って、ロケットを見たが、それはかつて私たちがつくったものだった。そのころは米のマネをしていたと答える。しかし、一昨年、日本に行った時、全く独自の技術で進めているのに驚いた。ステーションの参加には大いに期待している」。

取材後、すぐ近くの航空宇宙館を見て回った。ロケット、シャトル、月の石やアポロが月面着陸に成功した時のフィルムに米国人や



ゴダードが開発した最初の液体燃料ロケット(航空宇宙博物館で)

取材後、すぐ近くの航空宇宙館を見て回った。ロケット、シャトル、月の石やアポロが月面着陸に成功した時のフィルムに米国人や